



2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 に向けた環境対策(案)

課題認識

- 国際オリンピック委員会 (IOC) は、1994年にパリで開催されたオリンピック100周年会議において、「スポーツ」「文化」に加え、「環境」をオリンピック精神の第三の柱とすることを宣言
- 2012年に開催されたロンドン大会は、「One Planet Living (地球一個分のオリンピック)」をテーマに掲げて持続可能性に取り組み、成功を収めた夏季オリンピックとされている
- IOCが2014年12月に採択した「Agenda2020」では、持続可能性に関するIOCの取組が明記され、オリンピックにおける持続可能性の重要性が一層高まっている



2020年東京大会で行う環境配慮の取組を通じて、持続可能な環境都市モデルを提案し、「世界一の環境先進都市東京」の実現に向けた取組を一層加速させることが重要

オリンピック・パラリンピック大会に向けた環境対策

《2020年大会における環境対策の考え方》

環境に配慮した大会を通じて、豊かな都市環境を次世代に引き継ぐ

- 2020年大会を、東京が成熟都市としての豊かな都市環境を実現するための機会と捉え、持続可能な環境都市モデルを提案
- 選手村で、スマートエネルギー都市のモデル実現を目指すとともに、水素エネルギーを活用するなど、大会を契機とした先進的な環境対策に取り組むことで、レガシーを次世代に継承

【2020年大会に向けた取組の方向性】

持続可能な都市の実現のための環境対策の推進	水素エネルギーの普及に向けた取組
	スマートエネルギー都市の実現
	水と緑に囲まれ快適な都市環境の実現
	持続可能な資源循環型都市の実現

【水素エネルギーの普及に向けた取組】

○大会における水素利活用

- ・選手村等において水素エネルギーを活用し、スマートエネルギー都市のモデル実現を目指すとともに、水素社会の実現を推進

○将来の水素社会実現に向けた取組の加速化

- ・CO₂フリー水素を先駆的に活用するなど、環境と調和した未来型都市の姿と日本の高い技術力を世界に発信
- ・安全対策を着実に実施しながら、水素エネルギーを都市づくりに組み込むことにより、環境にやさしく災害に強い都市の実現を指向
- ・水素エネルギーの多角的な活用による日本のエネルギー構造の変革や低炭素社会の構築に向けて、長期的な視点に立って着実に取組を推進

【水素ステーション(芝公園)】



(岩谷産業株)

【燃料電池バス】



(トヨタ自動車株)

【燃料電池自動車展示】



【スマートエネルギー都市の実現】

○大会施設等での環境対策の推進

- ・ 大会施設等で省エネルギーや再生可能エネルギーの導入を進め、エネルギー利用を効率化・最適化
- ・ 会場建設から廃棄物処理までのそれぞれの段階で、CO₂排出を管理・抑制

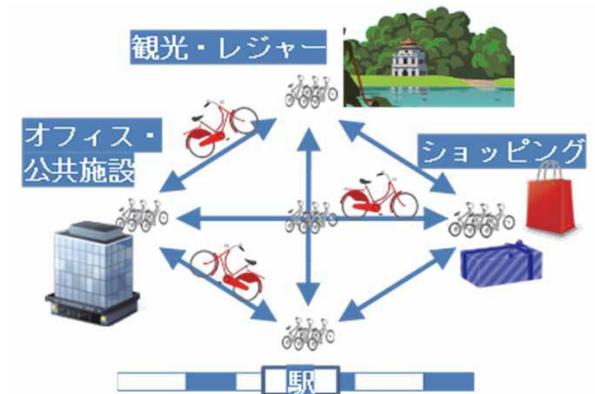
○環境負荷の少ない交通システムの推進

- ・ シェアサイクルの拡大と利便性の向上により、公共交通機関との連携を高め、利用を促進
- ・ 公共交通機関等に燃料電池自動車・バス、電気自動車等の次世代自動車を積極的に導入・支援

【省エネ・再エネ東京仕様】



【シェアサイクル】



【水と緑に囲まれ快適な都市環境の実現】

- ・ 遮熱性舗装の推進やクールスポットの創出など、大会時の暑さ対策を推進
- ・ 都民や観光客等が快適で美しいと実感できる「花と緑」を活かした緑化を推進
- ・ 緑を量的・質的に充実させ、生態系に配慮した在来種を活用した植栽を推進

【クールスポット】



【持続可能な資源循環型都市の実現】

○資源ロスの削減と廃棄物の循環利用の推進

- ・ 食品ロスの削減など、大会時の廃棄物の3R（リデュース、リユース、リサイクル）・適正処理を徹底

○サプライチェーン全体に配慮した「持続可能な調達」

- ・ 違法伐採された可能性の高い木材の排除など、サプライチェーン全体に配慮した資材・製品の選択を進めることで、持続可能な利用・調達を推進
- ・ 都民・企業等に対しても、低炭素・自然共生・循環型の原材料等（森林認証木材や再生骨材コンクリートなど）の選択を普及・促進